



燦々と燃ゆる陽



本別高校HP QRコード

【本別高校・ナウ】（本別高校の教育活動の近況報告です!）

★1 講演会：南極観測隊越冬隊長 阿保 敏広 氏（昭和54年度本別高校卒業生）

10月31日(月)、全校生徒を対象に本校卒業生で第62次南極観測隊越冬隊長を務められた阿保敏広氏の講演会がありました。気象庁の仕事や昭和基地での生活などについてお話しくださり、生徒たちには貴重な機会となりました。幼い頃に本を読んだことをきっかけに、南極へ行きたいという夢を持ち、紆余曲折ありながら実現したエピソードとともに、隊員の皆さんからのメッセージも紹介いただきました。さまざまな分野のプロフェッショナルのメッセージに心打たれた生徒も多かったようです。



やらずに諦めると、「なんであのとき…」という後悔が残る、自分で決めて挑戦すれば、叶わなくても「自分で決めたことだから…」と納得できる。

このような貴重な機会を設定していただいた、阿保様、本別町教育委員会の皆様に感謝いたします。

★2 CS事業：本別サイエンスクラブと高校生による小学校 科学実験クラブの支援

10月28日(金)、コミュニティー・スクールの異校種間連携事業の一環として「理科教育プロジェクト(Hosep)」の取組に、本高の1・2年生8名が参加しました。本別サイエンスクラブ（会長 高橋利勝）と本校の生徒が本別中央小学校の科学実験クラブ活動のお手伝いしました。「ペットボトルによる空気砲」実験後、高校生が「大型空気砲」実験を行いました。空気砲の原理を学ぶ



ことはもちろんですが、異なる世代の人と交流したことで、高校生にとっては新たな「気づきの場」となったようです。本別サイエンスクラブ（高橋利勝氏、石山憲司氏、高橋紀尊氏）の方々大変お世話になりました。地域の皆様にも支えられながら、生徒たちが着実に育っていることを感じます。

【吹奏楽部】 祝 本別町文化奨励賞 受賞！（2年連続）

10月21日(金)開催された本別町教育委員会で本別町文化奨励賞について審議され、本校吹奏楽部が2年連続で本別町文化奨励賞を受賞しました。11月3日(木)、本別町中央公民館で授賞式が行われます。

受賞理由

第67回帯広地区吹奏楽コンクール高等学校C編成の部、最高賞の金賞を受賞し、12年ぶりに4回目の全道大会に出場し、銀賞を受賞する快挙を果たした。



【2年生 探究活動「とち創生学」の進捗状況】 … 成果発表会までのカウントダウン:あと 13日

探究活動「とち創生学」も終盤、進捗状況について

令和4年11月15日 2年生「とち創生学」成果発表会開催予定

インタビューしました。

1班メンバーは、右写真の左から、八太・佐藤・矢吹・平尾さんです。本別町の観光客が減っていることを課題として、移住体験ツアーを企画について検討しています。Googleフォームを用いて町内の方々にアンケートをとるなど、今年度から本別町から貸与いただいていたタブレット端末を利用し現状分析を行いながら探究活動がすすられています。



2班メンバーは、左写真の左から、山根楓・山本・井出さんです。本別の知名度が低いことに課題意識を持ち、本別町産の大豆の魅力を発信することで本別の知名度をあげる取組です。大豆エンカル商品と企業と連携して取り組む内容で、町内の農家から大豆の提供を受けるなど、町内の多くの方々との支援を得るなど活動など行っています。

6班メンバーは、右下写真左から、松島・岡本・三浦・岩崎さんです。本別町は豆の町であり、豆を苦手とする人が多いのではとの発想から、本別産の大豆などを利用した誰でもがおいしいと思えるスイーツづくりを行う活動を行っています。本日からタルトづくりがスタートするとのことです。



★ 10月14日(金) 秋の避難訓練を行いました … 第一優先は自分の命守ること

年2回、本校で避難訓練を実施しており、10月に2回目の秋の防災訓練が行われました。避難訓練後、本来であれば、消防署からの講評がありますが、急遽来校できないとの連絡を受けたため、校長から防災に関わる話を全校生徒に行いました。1回目の防災訓練では、校長の奥尻高校教諭時代の奥尻南西沖地震の体験談をもとに、津波の恐ろしさ、命を守るための防災行動について話をしています。今回は、奥尻南西沖地震で津波から避難する生徒について話をしました。



「この生徒は、地震後、津波警報があったことから、直ぐに祖母をおぶって、何十メートルもある坂を駆け上がり、津波の被害を逃れた。高校卒業後、消防士、さらに、奥尻の津波被害の語り部として活躍していたが、多くの人達に命を守る防災意識を持って欲しいとのことから、消防士を辞して、現在は防災アドバイザーとして活躍している。」

この話をもとに、次のような話をしています。なお、生徒には自分の命が第一優先であり、自己の安全が確保できる状況においてとの前置きをしています。

避難とは、まず、指示のもと、自分の命を守ることが第一優先です。そして、自分の安全が確保できたならば、次は、幼児、小学生、お年寄りなど、いわゆる災害弱者といわれる人達を手助けできる人になってほしい。幼児たちから見た君たちは見ると、立派な大人に見えるはず。日常においても、高い防災意識を持ち、自分の命を第一に考え、自主的に正しいことを当たり前に行える人になってほしい。」